

2013 年度

地球温暖化対策計画書

1 指定地球温暖化対策事業者の概要

(1) 指定地球温暖化対策事業者及び特定テナント等事業者の氏名

指定地球温暖化対策事業者 又は特定テナント等事業者の別	氏名（法人にあつては名称）
指定地球温暖化対策事業者	小田急電鉄株式会社

(2) 指定地球温暖化対策事業所の概要

事業所の名称		新宿駅西口駐車場							
事業所の所在地		東京都新宿区西新宿1丁目 西口地下街1号							
業種等	事業の業種	分類番号	H42		H_運輸業_郵便業		鉄道業		
		産業分類名	鉄道業						
	事業所の種類	用途別内訳	主たる用途	駐車場					
			建物の延べ面積 (熱供給事業所にあつては熱供給先面積)	前年度末	28,812.47	m ²	基準年度	28,812.47	m ²
			事務所	前年度末	1,767.04	m ²	基準年度	1,767.04	m ²
			情報通信	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			放送局	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			商業	前年度末	6,817.38	m ²	基準年度	6,817.38	m ²
			宿泊	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			教育	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			医療	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			文化	前年度末		m ²	基準年度		m ²
物流	前年度末			m ²	基準年度		m ²		
駐車場	前年度末	16,237.16	m ²	基準年度	16,237.16	m ²			
工場その他上記以外	前年度末	3,990.89	m ²	基準年度	3,990.89	m ²			
事業の概要									
敷地面積		22,931.30 m ²							

(3) 担当部署

計画の 担当部署	名 称	小田急電鉄株式会社 SC事業部	
	連絡先	電話番号	03 - 3349 - 2101
		ファクシミリ番号	03 - 3345 - 7590
		電子メールアドレス	
公表の 担当部署	名 称	小田急電鉄株式会社 CSR・広報部	
	連絡先	電話番号	03 - 3349 - 2504
		ファクシミリ番号	03 - 3349 - 2499
		電子メールアドレス	eco@odakyu-dentetsu.co.jp

(4) 地球温暖化対策計画書の公表方法

公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> ホームページで公表	アドレス： http://www.odakyu.jp/csr
	<input type="checkbox"/> 窓 口 で 閲 覧	閲覧場所：
		所在地：
		閲覧可能時間
	<input type="checkbox"/> 冊 子	冊子名：
	入手方法：	
<input type="checkbox"/> そ の 他		

(5) 指定年度等

指定地球温暖化対策事業所	2009 年度	事業所の 使用開始年月日	◎平成18年3月31日以前
特定地球温暖化対策事業所	2009 年度		○平成18年4月1日 以降

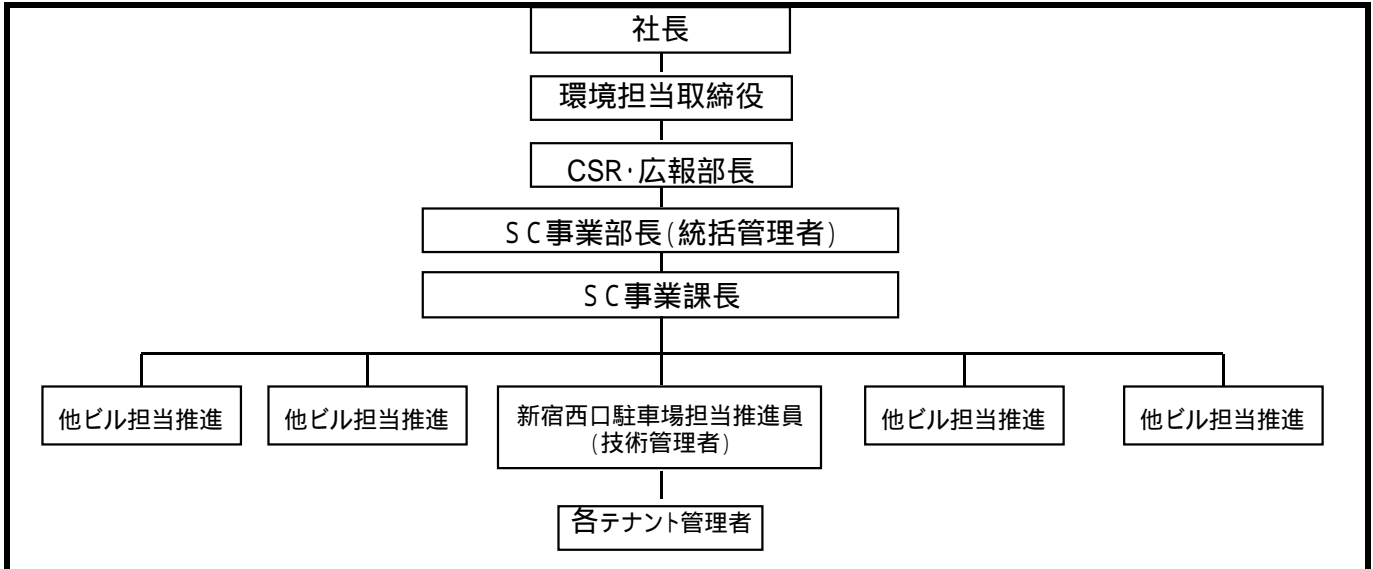
2 地球温暖化の対策の推進に関する基本方針

環境方針
(基本理念)
小田急電鉄は、「沿線の価値の向上」と「快適な時間の創造」に貢献するという経営理念に基づき、持続可能な発展を実現していくために、すべての事業活動における環境負荷低減と自然との共生に努めます。

(行動指針)

1. 快適な輸送サービスの提供 / 環境上優れた輸送手段である鉄道の利用拡大を目指すとともに、一層の環境負荷低減に努め、快適な輸送サービスを提供します。
2. 環境に配慮した事業運営 / すべての事業活動において、汚染の予防に努め、環境マネジメントシステムの継続的な改善を目指します。
3. 自然との共生活動の推進 / 小田急沿線に存在する豊かな自然の保全に配慮するとともに、自然からの恵みを持続的に享受できるように自然との共生活動を推進していきます。
4. 法規制の遵守 / 環境に関連する法令・条例および当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
5. 社員への啓発 / 社員への啓発活動を通じて、環境に対する意識向上を図り、環境保全活動に積極的に取り組みます。

3 地球温暖化の対策の推進体制



4 温室効果ガス排出量の削減目標（自動車に係るものを除く。）

(1) 現在の削減計画期間の削減目標

計画期間	2010 年度から 2014 年度まで			
削減目標	特定温室効果ガス	省エネルギー機器の導入によるエネルギー使用の最適化・効率化を追求するとともに、機器運転時間の見直しによる運用対策を実施する事により、総量削減義務（8%見込み）以上の削減を目指す。		
	特定温室効果ガス以外の温室効果ガス	当事業所から排出される特定温室効果ガス以外のガス（その他ガス）は、上下水道の使用に伴う二酸化炭素の排出が主体となっている。よって、入居テナントに対して節水を呼びかけ、使用量削減を目指す。		
削減義務の概要	基準排出量	3,942 t（二酸化炭素換算）/年	削減義務の平均削減率	- 1
	排出上限量（削減義務期間合計）	18,135 t（二酸化炭素換算）		8.0%

(2) 次の削減計画期間以降の削減目標

計画期間	2015 年度から 2019 年度まで	
削減目標	特定温室効果ガス	積極的な高効率設備への更新や設備運用の見直しにより、基準排出量の17%以上の削減を目標とする。
	特定温室効果ガス以外の温室効果ガス	現在の削減計画期間と同様に上下水道の使用に伴うその他ガスの排出となるのでテナントへの節水を呼びかけ、現状の1%以上削減を目指す。

5 温室効果ガス排出量（自動車に係るものを除く。）

(1) 温室効果ガス排出量の推移

単位：t（二酸化炭素換算）

		2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	年度
特定温室効果ガス（エネルギー起源CO ₂ ）		3,667	3,514	3,178	3,121	
その他ガス	非エネルギー起源二酸化炭素（CO ₂ ）					
	メタン（CH ₄ ）					
	一酸化二窒素（N ₂ O）					
	ハイドロフルオロカーボン（HFC）					
	パーフルオロカーボン（PFC）					
	六ふっ化いおう（SF ₆ ）					
	上水・下水					
合計		3,667	3,514	3,178	3,121	

(2) 建物の延べ面積当たりの特定温室効果ガス年度排出量の状況

単位：kg（二酸化炭素換算）/m²・年

	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	年度
延べ面積当たり特定温室効果ガス年度排出量	127.3	122.0	110.3	108.3	

6 総量削減義務に係る状況（特定地球温暖化対策事業所に該当する場合のみ記載）

(1) 基準排出量の算定方法

<input checked="" type="radio"/> 過去の実績排出量の平均値	基準年度：（ 2004年度、2005年度、2006年度 ）
<input type="radio"/> 排出標準原単位を用いる方法	
<input type="radio"/> その他	算定方法：（ ）

(2) 基準排出量の変更

変更年度	年度	変更理由	
変更年度	年度	変更理由	
変更年度	年度	変更理由	

(3) 削減義務率の区分

削減義務率の区分	- 1
----------	-----

(4) 削減義務期間

2010 年度から 2014 年度まで

(5) 優良特定地球温暖化対策事業所の認定

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
特に優れた事業所への認定					
極めて優れた事業所への認定					

(6) 年度ごとの状況

単位：t（二酸化炭素換算）

		2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	削減義務期間合計
決定及び予定の量	基準排出量 (A)	3,942	3,942	3,942	3,942	3,942	19,710
	削減義務率 (B)	8.0%	8.0%	8.0%	8.0%	8.0%	
	排出上限量 (C = A-D)						18,135
	削減義務量 (D = (A × B))						1,575
実績	特定温室効果ガス排出量(E)	3,514	3,178	3,121			9,813
	排出削減量 (F = A - E)	428	764	821			2,013

(7) 特定温室効果ガスの排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

夜間水蓄熱運転や空調設備の運転時間の見直しにより、特定温室効果ガスの排出量が減少した。

7 温室効果ガス排出量の削減等の措置の計画及び実施状況（自動車に係るものを除く。）

対策 No	対策の区分		対策の名称	実施時期	備考
	区分 番号	区分名称			
1	120300	12_運転管理及び効率管理	冷温水発生機の外気温を参考とした効率的な運転の実施 空調機・排気ファン運転時間の見直し	2010年度	
2	130200	13_空調設備の効率管理	インバーター制御方式の見直し	2010年度	2010年度に店舗空調機を温度とCO ₂ 管理によるインバータ装置の導入
3	150200	15_照明設備の運用管理	LED照明灯具の導入（駐車場）	2010年度	2010年度に駐車場照明をHf照明器具からLED照明器具へ変更
4	150200	15_照明設備の運用管理	LED照明灯具の導入（共用通路）	2011年度	2011年度に店舗通路照明をFHF照明器具からLED照明器具へ変更
5	130300	13_換気設備の運転管理	インバーター制御方式の見直し	2012年度	2012年度に駐車場換気をスケジュールとCO ₂ 管理によるインバータ装置の導入
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

8 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価（自動車に係るものを除く。）

1．事業所での省エネの取り組み

施設管理者が対策を率先して行いLED照明器具の導入を進めるとともに、テナントと協議を行いながら照明の減灯・点灯時間の見直し、空気調和設備の運転時間の見直しを行う等により、計画通り対策を実施している。また、空調機におけるインバーター制御の変更改修工事を実施し、一定の成果を確認した。

2．テナントへの働きかけ

テナント空調機の営業時間外の止め忘れなど警備員による点検確認指導により、テナントへの意識付けができた。

3．環境意識向上のための啓蒙活動

地域の環境改善活動（清掃ボランティア、違法駐車対策）へ積極的に参加し、環境に対する意識向上を図っている。